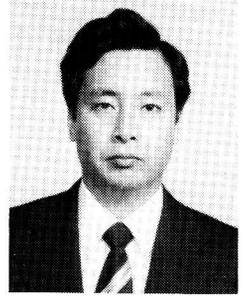


海外シリーズ⑦

砂漠のゴルフ



川口雄治

私は今、サウジアラビア王国分割地帯というところに住んでいます。分割地帯とは一般の方々には、耳なれない又実体の把握できにくい名称ではないでしょうか。

かつて、この地域はサウジアラビアとクウェート両国の中立地帯でした。中立地帯というのは、両国が国境を設定するにあたり、この地域一帯を遊牧地としていた砂漠の民ベドウィンに配慮して設けられました。すなわち、ある日突然彼らの遊牧地に国境が設定されると、どちらの国に所属するにしても、昨日まで家畜を放牧していた土地に入れなくなってしまい困るというので、両国が全ての権益を半分ずつ分かちあい、両国の遊牧民が自由に出入りできる地帯を設けたのです。

定住民が殆んど居なかった時代には、それは都合のよい制度だったのですが、この地に石油基地が建設され、町ができ、人口も増えてくると色々な不都合が生じてきました。交通事故を例にとっても、処理をする警官がサウジかクウェートかによって法規も異なり、処罰の程度も違い、はなはだしい場合には両国よりそれぞれに罰金を取られるという事例も発生しました。又、遊牧民の数も減って当初の目的の重要性も低下してきました。それで、地下資源に対する権益は以前のままとしたうえで、旧中立地帯を分割し、北半分はクウェートが、南半分はサウジアラビアがそれぞれ行政権を持つ事とし、この地域を分割地帯と呼ぶ事になりました。めでたし、めでたしというわけです。

さて、アラビアというと、童謡「月の砂漠」のイメージ、砂丘が延々と続く光景を想像されるのではないのでしょうか。サウジアラビアの中心部に大きく横たわるルブアルハリ砂漠はまさに、そういった地域です。ルブアルハリとは何もないという意味だそうですが、そういった砂漠はまさに不毛地帯で人間は殆んど住んでいません。しかし、そういう砂漠以外に、土漠とでもいうべき地帯もかなりの面積を占めており、この地帯は雨が少ないだけで決して不毛地帯ではありません。現に、貧弱ながら

灌木が生えており、冬期に雨などが降りますと、一斉に草が芽ぶき、あっという間に花が咲き乱れます。わが分割地帯の大部分はこの土漠？が占めています。

前置きが長くなってしまいましたが、こんな雨の少ない酷熱の辺境の地にもゴルフ場が有るのです。もちろん芝生はありません。フェアウェーは地面に重油をまいてかため、グリーンは砂に潤滑油を混ぜ踏み固めてあります。ボールは見つけやすいように明るい赤色のものを使います。最近でこそ日本でもカラーボールが使われるようになってきましたが、昔は特別注文で色を塗ってもらったり、カナダから輸入したりしていました。カナダでは秋口や春さきに雪が降ってもボールが見分けられるよう、かなり以前から赤ボールが使われていたそうです。

では、いざティーオフ。

もちろんキャディーさんは居ませんので、各自カートを引き回してゆきます。最近、VIP用に電動カートが導入されました。それはさておき、皆、カートに緑色の長方形の板状のものをぶらさげています。これは、日本でも室内練習などに使われる人工芝のマットです。ボールがフェアウェーに有る場合には、このマットの上にボールを置いて打ちますが、ラフではマットは使えません。ボールが固い地面上にある場合には、ラフでもそれほど苦にはなりません、柔らかい部分にころがり込んで、三分の一ほど沈み込んでいたりしますと、日本のゴルフ場のフェアウェーバンカーと同じで、私などはトップやダフリをくり返し、全身舞い上った砂ぼこりで真白、劇画風に書けば、バサッ、チョロ、ゴホン、ゴホンとなります。フェアウェー以外は全てバンカーみたいなものですから、バンカーなど必要が無いように思われますが、そこは一応体裁をととのえるため？バンカーもところどころに配置してあります。しかし、こちらで経験を積むと、バンカーにボールが入っても、砂を取らずにクリーンに打つという特技を身につける事ができます。

苦難の末ボールがグリーンに乗りました。一応踏み固めてありますが、やはり砂ですので、前のパーティーの足跡などが残っており、T字状の「ならし棒」で表面をきれいにならします。この時にパーティーの他の人にバ

アラビア石油㈱ アラビア鉱業所勤務
(昭和47年応用化学科卒・新制22回、49年大学院修士課程修了)



れないように、パットする方向に目印を付けるのがコツです。芝目の無い代りに微妙なアンデュレーションが有り、仲々入りません。

次のホールはラフが呼び物。左側は魔のロストボール地帯。野ウサギやハリネズミ、トカゲなどの穴が無数に口をあけており、これに入り込んだらたとえ赤ボールといえども発見は困難、うっかり穴に手をつっ込みますと、サソリが居ますので御用心。

右側は小山地域で高さ1メートル程の小山がこれまた何十と重なり合っており、まばらに生えている、葉がトゲのように固くなった禾本科の草と相まって、まともにスタンスが取れず、ここに入り込むと、本場英国ゴルフ場のヒースのブッシュもかくやと思われる程の悪夢となります。

やっとグリーンに乗せると、グリーンのエッジで野ウサギが耳をピンと立てて、我々の作業を見守っているという心なごむ光景にも、たまにはお目にかかれます。

ウサギといえば、ゴルフ中に色々と収穫物が有るのも、ラフを主に歩く者の特権です。ウサギをつかまえて、プレーを中止して帰ってしまう人、ハリネズミを子供のペットにと持ち帰る人、中でも出色なのが「砂漠のきのこ」。これは、日本の松露やフランスのトリュフの仲間で、春先、雨の降った後一週間程、暖かい日が続いたあとに期待できます。地面にひびが入り、少し盛り上っている部分を少し掘ると、直径2センチ位から大きいものになると7~8センチの楕球形のきのこが出てきます。一個見つかると、まわりに何個か有る事が多く、大収穫で、ゴルフから帰ったあと御近所におすそ分けできる程という幸運に恵まれる事も有ります。

ゴルフの後はビールのジョッキをグーと傾けたいとこ

ろですが、なにせ禁酒国の事、アルコール無しのルートビアで代用する事になります。どういうわけか、アラビア人は全くゴルフをしません。

ゴルフのシーズンは、何といっても10月から3月までの比較的涼しい時期が最高ですが、「下手の横好き」「好きこそ物の上手なれ」のどちらだか分かりませんが、夏期、摂氏40度を軽く越す炎熱の下、週末ともなると、汗をふきふきゴルフカートを引っぱる姿を見るのも5人や10人ではありません。やはりイスラムの戒律厳しいお国柄、イスラム教徒ならぬ我ら外国人にとっては、ストレス解消になる娯楽が少ないのです。

暑い季節のゴルフでは帽子と大型水筒は必携で、これを怠ると熱射病にかかり、泡をふいて倒れる事になります。

数年前、この地域を竜巻と直径10センチもある雹が襲い、アラビア人が多数死傷するというでき事がありました。ちょうど週末で、多数の日本人がゴルフに興じていましたが、幸い一人の怪我人も出ませんでした。「アラは立派な神様かもしれないが一人？しか居ない。日本には八百万の神々がおわします。やはり数がものをいったのだ。」とは、日頃イスラム教にいためつけられている、ある不信心者の弁。

以上、ゴルフを通して、アラビアでの生活の一端を御紹介しましたが、アラビアでの生活環境も年々変化しています。かつては、仲々手に入らなかった野菜や果物などの生鮮食品も豊富になり、町には最新型の工業製品が溢れるようになってきました。その反面、国力が強くなるに従い、外国人に対する風当たりも増してきました。かつては外国人には許されていた飲酒も、まずサウジアラビアが、続いてクウェートが禁止するに及び、この地域では完全禁酒となりました。また、最近では両国は多数の外国人労働者を締め出しています。今のところは一般労働者が中心ですが、いずれ熟練労働者や技術者にも波及すると思われ、そうなれば我々日本人も例外ではなくなる事でしょう。サウジ、クウェート両国は、一方で近代化を進め、他方で先進国に見られる心の荒廃をイスラムの強化により防ごうとしているようです。

なにとはともあれ、この地域に何かの折においでの際はぜひ、砂漠のゴルフもお試し下さい。